

第1章

第1条 スポーツマンシップに従い、公明、公平に競技を行ない、安全を第一とし、よりよい人格者であること。

第2条 社会秩序を守り、開催される湖および各々の大会の規定に従うこと。

第3条 トーナメント中の事故、傷害、盗難等については参加者個人の責任とし、主催者およびスポンサー、所属チーム等に対して一切責任を問わないものとする。また、JB登録選手はトーナメント以外においてもすべての行動の責任を個人が負うものとし、重大な事故や傷害でない限りトラブルが発生した場合は個人で円滑に処理すること。

第4条 計量した魚は選手個人の責任において処理する。

第5条 競技規定は、必要に応じて予告なく変更することがある。

第6条 違反の決裁と審査

- 1) 競技規定、審査規定に違反する行為の裁決は、すべて大会委員長の判断に委ねる。
- 2) 大会委員長は、本規約にない違反に対して、3人以上の大会本部役員を召集して審議会を開き、意見を聞くことができる。

第7条 出場資格

- 1) その年度のトーナメント出場キットを購入した者。
- 2) 全JBトーナメント出場資格年齢は18歳以上とし、高校卒業見込み者は登録可。
- 3) JBトップ50プロシリーズへの出場資格は、本年度のJBトップ50登録選手に限る。
- 4) JBマスターズプロシリーズへの出場は、本年度のJBマスターズ登録選手に限る。
- 5) JBプロトーナメント(ローカル)シリーズへの出場は、本年度のJBプロトーナメント登録選手に限る。
- 6) JB II プロアマシリーズへの出場は、本年度に登録されたJB II プロアマ登録選手に限る。このシリーズはチームトーナメントであるが、登録はポーター(JB選手に限る)のみとなる。ポーターはパートナーを自由に変更でき、パートナーを変更した場合も年間成績が残る。
- 7) NBCチャプタートーナメントへの出場は、本年度のバスマガジン購読者と全JB登録選手に限る。
- 8) ジュニアトーナメント出場資格年齢は12歳以上18歳以下とする。
- 9) 別項の競技規定をすべて満たし守れる者であること。
- 10) 身体障害者の大会出場について
身体障害者であっても、小型船舶操縦士免許、自動車運転免許取得者は、安全確認補助員(非会員も可)と同船することでJB・NBCの大会に出場できるものとする(要出場資格)。また、大会委員長が1人乗船で安全確保ができると認めた場合は、エリア限定制限等の特別ルールを取得することもあるが、1人乗船でJB・NBCの大会に出場できる。同船する安全確認者は釣りをしてはならない。
なお、身体障害者のトーナメント出場機会を増やすことを目的に、JB II プロアマ出場資格を取得している選手(健常者)とチームを組むことで、JB II プロアマシリーズにエントリーすることができる(制約あり。第3条、第27条参照)。
- 11) JB登録選手およびNBCチャプタートーナメントに出場するバスマガジン購読者はメール機能付き携帯電話を所持し、そのeメールアドレスをJB本部に登録しなければならない(P18参照)。

第2章 競技規定

第8条 先行者の優先権

- 1) 先行者の許しを得ない限り、釣りをしていないボートの半径20m以内に近づいてはならない(キャストイングをしている、エレキを下ろしている、アンカーを下ろしている、マーカークライを打っている状態の時は釣りをしていると見なす)。先行者が入れたマーカークライへ向けてのキャストは禁止とし、先行者の釣りを妨害してはならない。
- 2) 河口湖のように混雑が予想される場所では、先行者の許しを得ることで半径20m以内に近づくことができる。先行者からクレームが出た場合は失格となる(先行者は現場の状況に配慮すること)。

第9条 情報交換の禁止

- 1) 競技開始から終了まで、自分以外の釣り人の釣技、釣果、ルアー、場所等を話題にしてはならない。
- 2) 競技中に他からの情報を得てはならない(非常時以外の通信機器の使用禁止)。

第10条 自然保護の原則

- 1) トーナメントエリア内に、あらゆる手段において釣り場の造成、破壊をしてはならない。
- 2) アシを釣る場合は、船体にアシが触れてはならない。
※アシの中を釣ることはできるが、根掛かりした場合のルアー回収はできる限りアシを傷めないように努める。

第11条 釣法

- 1) ルアーフィッシングに限る(毛バリの使用は禁止)。
- 2) 生き餌、撒き餌の使用禁止。
- 3) トローリング(エンジンの動力を利用する)釣法を禁止する。
- 4) ドラッキング(エレクトリックモーターの動力を利用する)釣法において、キャスト後に連続50m以上ボートを進めてはならない。同釣法においてハードルアーを使用する場合は、キャスト後にリールからラインを引き出してはならない。
- 5) 置き竿の禁止。キャストしてルアーを巻き上げるまでロッドから手を離してはならない。
- 6) 2個以上のルアーを同時に湖水面に付けてはならない。2本以上の枝バリ(ドロッパー)およびアラバマリグも使用禁止とする。
- 7) マーカークライは1個だけ使用できる。マーカークライまたはその役目を果たすもの(テープやペイントも含む)をトーナメントエリア内に放置してはならない。
- 8) バスを故意に引っ掛けてはならない。
- 9) ウキの使用を禁止とする。軽量ルアーをキャストするための飛ばしウキや同目的で使用するルアーも含む。但し、ルアーに直接セットするフロートはルアー本体の一部と見なし、使用可。
- 10) ボートを係留しての釣りを禁止とする(※アンカーの使用は可)。

第12条 タックル

- 1) ロッド、リール、ルアー、魚探、GPSの個数および量については原則として制限しない。
- 2) ロッドは8ftまでとする。
- 3) ひとり1個以上の魚をキープするためのエアレーター及び循環器等の付いた容器を用意する。チームトーナメントは1チーム1個でも可。
- 4) 目立ちにくい色のマーカークライを大会中に使用してはならない。
- 5) トーナメント前1ヵ月は水中カメラの使用を禁止とする。また、同期間に他人が撮影した水中映像も見てはならない。
- 6) 生分解しにくい油性の集魚材の使用を禁止する。
- 7) ルアー(ハードプラグおよびソフトルアーを除く)およびジグヘッド、シンカーはFeco認定品を使用しなければならない。保管方法はエコタックルルールに準ずる。
＜補足・1＞シンカーが取り付けられているソフトマテリアルのスイムベイトは使用できない(※Feco認定品を除く)。但し、最初から内蔵

されているシンカーを取り除き、Feco認定シンカーを挿入したものは使用可。使用するFecoシンカーに[F]マークがないものは現場で挿入しなければならない。

＜補足・2＞テールスピニングおよびメタルパイプはハードベイトに属さず、Feco認定品のみ使用可。

＜補足・3＞ソフト素材のフロッグはエコタックルルールに準ずる。

8) ランディングネットはJB認定品を使用しなければならない(魚体保護のため)。

※トーナメントで使用するすべてのフックのパープレス化を検討中(メーカーの開発が整い次第実施)。

※エコタックルトーナメントは使用タックル制限に特別ルールを適用する(P45参照)。

※NBCチャプタートーナメントは全大会エコタックルルールを適用。

第13条 ボート

- 1) チームトーナメント(2名乗船)で使用できるボートは12ft.以上とする。チームトーナメント以外のJBトーナメントは2名乗船を認めない。
- 2) 動力船を使用する場合は海技免許および船舶検査証書のコピーを事前に本部へ提出しなければならない。
- 3) 推奨馬力の範囲を越えたエンジンやチューンナップを施したエンジンを取り付けたボートの使用は認めない。
- 4) 全JB登録選手はその年の年号が入ったJB規定のステッカーを使用するボートの両サイドに掲示しなければならない(レンタルボートを除く)。
- 5) すべてのトーナメントにおいて、使用するボートには法定備品一式を備えておかなければならない(救命胴衣は着用する分を含み乗船人数分積み込めばよい)。但し、エレクトリックモーターのみを動力とする場合に必要の備品は、笛、信号紅炎、バケツとする。
- 6) 保険加入の義務。エンジン船を利用する場合、船舶保険に加入し、責任を負える程度の対人賠償契約を必要とする。2名乗船およびJBプロトーナメントで使用するボートには搭乗者保険も必要とする。
- 7) 使用するエンジン船には、キルスイッチを取り付け、エンジン作動中以外でも、キルスイッチの紐を必ず体に固定すること。
- 8) ボート繫留時の破損防止のため、1船につき2個以上のフェンダーを用意しなければならない。
- 9) 動力を使用するボートはビルジポンプを装着しなければならない。FRP2層式(自動排水タイプ)はこの限りではない。ローボートの場合は水汲みバケツを用意すればよい。
- 10) 公道でトレーラー・ボートを運搬する場合、トレーラーはすべて車検を受けなければならない(仮ナンバーは不可)。総重量750kgを越えるトレーラーをけん引する場合はトレーラーにプレーキを装着し、けん引免許を取得しなければならない。
- 11) エンジン取付認識ベルトは競技中、プライベート時に拘らず装着しなければならない。バスマガジン購読者の認識ベルトは購入年から3年間使用可。エンジンを使用しない場合は周囲から認識されやすい場所に掲示する。
- 12) すべてのトーナメントにおいて使用するボートにはフライトフラッグを備え、競技中はフライトフラッグを外部から見やすい位置に掲示しなければならない。
- 13) 海技免許を取得していない選手が全長3m未満(小型船舶検査機構の登録不要サイズ)のボートで小馬力エンジン(2馬力または150Lb未満。エレクトリックモーターを含む)を使用する場合は事前申請を必要とし、安全講習を受けたうえで大会での使用が認められる。チャプタートーナメントに出場する場合はチャプター事務局へ、その他のJB・NBCトーナメントはJB・NBC本部へ申請のこと。
- 14) ガンネルを越える高さのハイドキックおよび踏み台を使用してはならない。

第14条 操船

- 1) 営業船などの他船の航路を確保し、安全な航行、停船を行うこと。
- 2) スタートおよび競技中のボートの航行は、荒天等やむをえない場合を除き、エンジンの回転数3,500回転以下とする。

- 3) スタートのとき、原則として前のボートを追い越してはならない。
- 4) すべての釣り人の近くを通過するときはアイドリング航行とし、引き波に注意しなければならない。
- 5) 船外機作動中の釣りを禁止とする。

第15条 ウェア・露出等

1) スポンサーの利益保護のため、本協会に対し協賛なきメーカーの広告(ロゴマーク、ブランドマーク等)を着衣、船舶、自動車に付けてJB・NBC並びにNBCチャプターが主催する大会に参加することはできない。また、釣り人として各種メディアで活動する場合には、協賛なきメーカー名やブランド名が入ったウェアを露出してはならない。
＜補足＞スポンサーによりロゴマーク、ブランド名の露出制限が設けられている。オフィシャルスポンサー以外のスポンサー商材関連の露出はJB・NBC本部へ申請のある契約スポンサーに限定される(P15参照)

2) スポンサーの利益保護のため、本協会に対し協賛なきメーカーのボートと船外機を大会で使用する場合、そのメーカー名、製品名を露出してはならない。
3) 原則として競技時間中は帽子、ライフベストを脱いではいけぬ。走行時に限り帽子を外してもよい。

4) 全JB登録選手はJBゼッケンおよびNBCワッペン、NBCチャプタートーナメントに出場するバスマガジン購読者はNBCワッペンを縫い付けたウェア(競技中はライフベスト)を大会当日の受付から表彰終了時まで着用し、雨天のときを除き、陸上では必ずワッペンを露出しなければならない。雨天のときはワッペンを縫い付けたウェアのうえにレインウェアを着用してもよい。JBゼッケン、バスマガジン購読者のNBCワッペンはウェアの左胸心臓付近に糸で縫い付けること。JB登録選手のNBCワッペンは左右どちらの胸でもよい。

＜補足＞NBCワッペンの複製は刺繍のみ認められるが、純正品と同色を使用しなければならない。レインウェアにはJB・NBCワッペンを縫い付けなくてもよいが、ライフベスト(膨張式以外のタイプ)には規定のワッペンを必要とする。また、ボート上ではワッペンを縫い付けたウェアの上にレインウェアや防寒着を着用してもよい(※新機能救命具には特別ルールあり)。

5) 新機能救命具(膨張式)は、JB認定品に限る。なお、膨張式救命具は必ずウェアの上から着用し、ゼッケン及びワッペンの貼り付けを禁止とする(ウェアの内側に着用したり、ワッペンを縫い付けることで膨張の妨げになる場合があるため)。

6) ライフベストの陸上での着用は禁止とする。ウエストポーチタイプの新機能救命具のみ、陸上での着用が認められる。

7) JB登録選手は、その年の年号が入ったJBステッカーとFecoステッカーを車両後方の見やすい位置に貼り付けなければならない。

8) 大会競技中以外は、大会会場でサングラスを着用してはならない(不正防止で視線を確認するため)。診断書を提出した選手および、JBトップ50出場選手はこの限りではない。

9) NBC登録選手は、その年の年号が入ったNBC規定のステッカーを車に貼り付けなければならない。

第16条 プラクティスの禁止

- 1) JBトップ50プロシリーズのプラクティス禁止期間は、大会1日目の2週間前から3日前までとする。ただし、会場により禁止期間が変更される場合がある(変更の場合は事前にEメールにて通知)。
- 2) JBマスターズシリーズのプラクティス禁止期間は、トーナメント第1日目の5日前(月曜日)から2日前までとする。
- 3) 日曜日に開催されるJBプロ(ローカル)およびJB II 四国、JB II 東条湖、NBCチャプタートーナメント各シリーズのプラクティス禁止期間は、トーナメント開催日の6日前(月曜日)から2日前(金曜日)までとする。
- 4) 土曜日に開催されるJBプロ(ローカル)およびJB II 河口湖シリーズのプラクティス禁止期間は、トーナメント第1日目の5日前(月曜日)から2日前(木曜日)までとする。
- 5) トーナメント前日のプラクティスは午後4時までとする。
- 6) トーナメント開催期間中は、競技時間外のトーナメントエリアでの

ない。但し、先に契約を交わしていたスポンサーとJB会長の承諾があれば移籍できる。

第27条 JB登録資格の取得

1) JBトップ50プロシリーズ

a JBトップ50登録選手は、年間成績上位30位以内に入れば次年度の同カテゴリーに継続して登録できる。31位以下の選手はJBマスターズプロへ降格となる。永久シード選手は成績に関係なく、条件付きで残留することができる。

b JBトップ50への昇格は、次の成績を残し、私塾を開催した上、会長面接に合格しなければならない。

・イ) JBマスターズプロシリーズ: シリーズ年間成績上位選手で、トップカテゴリーに相応しい選手。

・ロ) JBプロ(ローカル)シリーズ: 各シリーズ年間優勝者(計9名)。

・ハ) JB II プロアマシリーズ: 各シリーズ年間優勝チームのポーター(計3名)。但し、プロ登録選手同士でチームを組んだ場合は昇格資格は与えられない。

・ニ) ヒューマンフィッシングカレッジ新卒者2名

c 協会、釣り界、釣り業界への貢献度が高い若手~中堅選手が残留できなかった場合に限り、期間限定(3年)シード選手を選考する必要がある。選考基準は、過去5年間のJB・NBC全トーナメント優勝回数、過去2年間のJB・NBCトーナメント出場回数及びJBトーナメント登録カテゴリー数、エコリーダー資格の取得、私塾の開催など。自薦、他薦を問わない。推薦する場合は各種メディアでの露出度や、レクチャー、イベントなどの活動内容をJB本部へ報告しなければならない。

※会長面接では、活動内容(協会および釣り界への貢献度)を重視する。辞退する者は各大会委員長に申し出る。

2) 本年度JBプロトーナメント(ローカル)、JB II シリーズからJBマスターズプロへ昇格を希望する選手は、本年度エントリーしているシリーズの第1戦目の受付の際に「JBマスターズプロ昇格申請書」を大会委員長に提出し、シリーズ全戦終了後に面接を受けて合格しなければならない。合格者には責任保証書が授与される。

3) バスマガジン購読者から新たにJBプロ(ローカル)およびJB II シリーズに昇格を希望する者は、本年度に開催される何れかのNBCチャプターシリーズ全戦に出場しなければならない。その際にJBプロ登録意思があることを大会委員長へ第1戦受付までに伝え、JBプロ登録申請キャップを購入すること(第2戦目からそのキャップを着用しなければならない)。全戦終了後に面接を受け、合格者には責任保証書が授与される。

※JBプロ登録申請キャップは次年度JBプロ登録してから1年間着用しなければならない。

※出場資格を持たない身体障害者とチームを組んでJB II シリーズにエントリーする場合、身体障害者の保護者または家族の承諾書と、第3条に関する誓約書を送付のうえ、会長面接を受けなければならない。

※JBプロへの登録は、各湖ごとの状況を勘案し、出場選手数に上限を設け、上限に達しているカテゴリーに関しては登録待ちとなる。また、参加人数に余裕がある場合はメールマガジンにて募集をかけ、年間成績上位選手から登録資格が与えられる(規定の手続きは必要)。

第5章 表彰規定

第28条 年間賞

すべてのトーナメントにおいて年間獲得得点と同じ場合は、年間総重量が重い選手を上位とする。得点、重量ともに同じ場合は、ランキングが上の選手を上位とする。

1) JBトップ50プロシリーズ年間賞

シリーズ全5戦の合計獲得得点によって年間成績を決定する。

a ワールドチャンピオン: 獲得得点1位

2) JBマスターズプロシリーズ年間賞

シリーズ第1~4戦の合計獲得得点によって年間成績を決定する。

a バスアングラオプザイヤー: 獲得得点1位

3) JBプロトーナメント(ローカル)、JB II シリーズ年間賞

各地区ごとのシリーズ第1~4戦(JB II シリーズは第1~3戦)の合計獲得得点によって年間成績を決定する。

4) JBマスターズプロ、JBプロトーナメント(ローカル)、JB II の3シリーズの決勝大会として全日本バスプロ選手権を開催し、各シリーズ戦において1度でも参加者数の上位20%に入った選手に出場資格が与えられる。

第29条 トーナメントの賞

1) 入賞圏内は出場選手数により決定する。

第30条 得点の方法

1) 大会ごとの個人(チーム)獲得得点

各大会の順位を、以下の方法で得点に換算する。

a JBトップ50プロシリーズ

1位60点、2位59点、3位58点...以下50位11点まで。51位以下は5点とする。

b その他のJBプロトーナメント(TOP50以外)

各シリーズの1位の獲得得点は参加人数により決定する。1位から順位が1つ下がるごとに得点も1P少なくなる。

c NBCチャプターシリーズ

1位30点、2位29点、3位28点...以下20位11点まで。21位以下は5点とする。参加人数の多いチャプターではこの限りではない。

※失格者は0点とし、参加人数に含めない。

第31条 ジャパンスーパーバスマジック2012出場資格

1) JBトップ50シリーズ総合成績上位20名

2) JBマスターズシリーズ総合成績上位5名

3) JBプロトーナメント(ローカル)シリーズ総合優勝者。

3) 全日本バスプロ選手権優勝者(東西各1名・計2名)

4) 前年度JBクラシック優勝者

5) NBCチャプターブロックチャンピオンシップ優勝者(8ブロック各1名・計8名)

※NBCメンバーも出場権を獲得できるが、体験参加とする。

※定員を50名とし、繰り上げは認めない。出場権の重複等で定員に満たなかった場合はJB会長推薦で選手を選出する。

第32条 JBクライマックス・エリート5選出(会場未定)

TOP50プロシリーズ年間総合成績上位5名に出場資格が与えられる。

■エコタックル・ルールの補足説明と注意事項

1) 使用が規制されているタックル類は一切ボートに持ち込んでではない。陸釣りの場合は、Feco認定タックル以外のタックルは持ち歩かないこと。

2) Feco認定マークが付いているルアーおよびジグヘッド、シンカーの保管方法は自由とし、タックルチェック前のセッティングを認める。なお、Feco認定マークのない製品は製品パッケージに入れて保管し、タックルチェック後にセッティングしなければならない。一部集魚材などは製品本体ではなく外箱にFecoシールが貼られているものがあり、このような製品は外箱に入れたまま保管すること。

※エコタックルトーナメントはプラクティスにおいてもエコタックルを使用すること。

<使用可の小物類> ※Feco認定品が製品化されるまでの期間。

- 1) ベグ(ワームがフックからズレないように防止する目的で使用する場合)。
- 2) キャロライナリグのビーズ。
- 3) 目玉シール。

ECOタックル・レギュレーション2012



■ライン

リーダー(先糸)に30cm以上のFeco認定ラインを使用すれば既存のラインを使用することができる。

※1) キャロライナリグなどでラインの途中にシンカーやスイベルをセットする場合も、フックから30cm以上はFeco認定ラインを使用しなければならない。

※2) ダウンショットリグは、フックから上30cmと、フックからシンカーまでの部分にFeco認定ラインを使用しなければならない。

※3) リーダーの接続部に瞬間接着剤を付けてもよい。

■シンカー (Feco認定製品に限る)

Feco認定を受けているが、認定される前から市販されている製品は同一製品であってもパッケージにFecoシールが貼られていないものは使用できない。

■ジグヘッド (Feco認定製品に限る)

※1) Feco認定シンカーを利用した自作ジグヘッドは使用可。ただし、ウエイト部分を溶かしたり、形状をかえてはならない。

※2) ジグヘッドを塗装して使用する場合、本体に「F」の刻印がない製品もしくは塗装して「F」マークが見えなくなった場合は、その上に「F」のスタンプを押さなければならない。なお、塗装した場合は事前にサンプル品を1点添えてNBC本部へ使用申請すること。

■ソフトルアー (ワーム類/新素材ポークルアー)

Feco認定製品と、Feco認定マテリアルで作られた自作ルアーに限る。

※1) ルアーはカットして使用できる(ルアーの全長制限なし)。

※2) 複数のルアーを溶かしたり、接着剤を使用してつなぎ合わせることはできない。

※3) 複数のルアーを1つのフックにセットすることができる。

※4) 素材の染色は禁止とする。

※5) 自作ルアーを使用する場合もFeco認定を必要とする。但し、ポークルアーのシートをカットして使用する場合はFeco認定不要。

■プラグ類

現段階ではハードプラグおよび、ソフト素材を用いたフローティングタイプのプラグに使用規制を設けない。

※1) ソフト(曲がる)素材のプラグはソフトルアーの規則に準じる(Feco認定が必要)。

※2) ボディーの一部にソフト素材を使用したシンキングタイプ(サスペンドも含む)のプラグは、次の条件を満たしていれば使用が認められる。<a>シリコン系およびエラストマーを使用したソフト素材であること(塩ビ素材は使用不可)。ソフト素材部分の長さがボディー全長(リップもボディーを含む)の3分の1以下であること。

※3) ボディーにブレードを取り付けてもよい。

※4) ソフト素材のフロッグは鉛を使用していなければ使用可。チューニングでシンカーを付ける場合はFeco認定品を使用すること。

■スピナーベイト・バスベイト (Feco認定製品に限る)

※1) Feco認定ジグヘッドを使用したジグスピナーは使用可。

※2) シリコン系ラバースカートを装着してもよい。

※3) ブレードは自由に交換でき、アームを溶接等で取り付けでもよい。

■ラバージグ・フェザージグ (Feco認定製品に限る)

※1) トレーラー部分はFeco認定製品を使用しなければならない。

※2) シリコン系ラバースカートを装着してもよい。

■その他のルアーと付属品について

次のルアーはFeco認定製品に限る。スピナー・スプーン・メタルバイブ・テ

ールスピニング・メタルジグ。ポークやフライ・フェザーなどの自然素材、ルアーの付属品として使用するナイロン繊維においても、保管液や着色料の問題があるためFeco認定製品に限る(※フェザーとナイロン繊維のみ特例あり)。

※1) Feco認定外のフェザーとナイロン繊維が使用できるケース。<1> フローティングルアーやそのフックに付属品として取り付けられた場合(ソフトルアーの場合はフックをセットした状態で浮くこと)。<2> シンキングおよびサスペンドタイプのルアーやフックの付属品の場合、長さ3cm以内のフェザーとナイロン繊維は規制の対象外となる。長さはボディー及びフックからハミ出した長さとする(※ジグヘッドに使用する場合は長さに関係なくFeco認定を必要とする)。

■その他のグッズetc.

エンジンオイル・活性剤、テキサスリグの「シンカーストッパー」、ワッキーリグに使用するフック外れ防止用の「伸縮チューブ」は、Feco認定製品に限る。

■ラインに関するレギュレーション
エコライン (30cm以上) 長さに関係なくエコライン

■ソフトルアー(ワーム/ポーク)に関するレギュレーション
ワームはカットして使用できる cut! 複数のワームを1つのフックに使用できる joint!
さまざまな形にカットして使用できる cut! 前もって複数のワームを接着してはならない
複数のポークルアーを1つのフックにセットできる

■ハードプラグに関するレギュレーション
A 全長 ハード素材 B ソフト素材部分の全長 ソフト素材
「A×1/3 ≧ B」であれば使用可
※リップもボディーを含む。アイの位置よりリップの先端が前に出ている場合は、リップの先端から全長Aを計る。 ジグヘッドは必ずFeco認定品 ※自作も可

■Feco認定外フェザー・ナイロン繊維とフロートの使用について
<フェザー> フローティングタイプのルアーにはFeco認定外のフェザーも使用可。 ネイルフロートはリグ全体が浮く場合のみ使用可。
フェザージグはFeco認定品のみ使用可。 ※通常のトーナメントでは使用不可。

■認定外フェザー・ナイロン繊維の特例 (シンキング、サスペンドタイプ)
3cm以内 ※はみ出し(3cm以内)はFeco認定外のフェザーを使用できる (フェザージグを除く)。

JBトーナメントのエコタックル大会はすべてFeco認定ラインの使用義務を義務付けませんが、できる限りFeco認定ラインをご使用ください。